

【サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究班 第2回訪欧】

訪欧スタッフ： 国立国際医療研究センター腎臓内科 日ノ下 文彦（班長）
帝京平成大学健康メディカル学部理学療法科 栢森 良二
東京女子医科大学附属病院総合診療科 志賀 智子

訪欧時期： 2016年8月21日～8月29日



8月22日
北ドイツでサリドマイド被害者の医療に取り組む
Dr Beyer（ハンブルク）を訪問
（左から被害者の方、Dr Beyer、日ノ下、志賀、栢森）



8月23日
ドイツ中部でのサリドマイド被害者の整形外科的治療に取り組みながら
実態調査を行った Dr Peters（ニュウムブレヒト）を訪問
（左から被害者の方々、Dr Peters、志賀、日ノ下、栢森）



8月24日
それぞれの情報と活動報告を行い交流を深めるため、
英国の The Thalidomide Trust の Dr Morrison と
ケルンでミーティング
（左から日ノ下、志賀、Dr Morrison）



8月25日
サリドマイド被害者をはじめ四肢障害者の医療に取り組む
スウェーデンの EX Center（ストックホルム近郊）を訪問
（左から栢森、作業療法士 Ms Ragnö、Dr Buch、
被害者 Ms Wikström、Dr Ghassemi、後ろ向き 志賀）



8月27日

自ら被害者でありサリドマイド被害者の問題を取り扱っている
Dr Schulte-Hillen（ルツェルン）を訪問

（屋上にて左からDr Schlute-Hillen、志賀、Dr Bettina Ehrt、栢森）